

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	大阪府
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	大阪府枚方市立東香里中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	7	7	7	2	23	44
児童数	245	246	268	9	769	

研究の概要

1. 研究主題

<p>基礎・基本の定着と学力向上を図るための実践・研究を行う。 生徒一人一人に応じた指導のための指導方法及び指導体制の在り方を探る。 個々の生徒の能力に応じた発展的な学習や補足的な学習の教材研究。 生徒の学力の評価を生かした指導の研究。</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

第3学年・数学								
(学年としては、進路を控え、学習意欲の向上が期待できる時期であり、教科としては、単元毎の理解度を小テスト等で把握しやすく、個々の生徒の学力向上が期待できる)								
本校では、第3学年の数学の授業を次のような授業形態で行うことを計画し、実施した。								
均等3分割 (式の計算)	課 題 別	均等3分割 (平方根・2次 方程式)	課 題 別	均等3 分割(方 程式)	習熟度別 3分割 (関数)	習熟度別 3分割 (相似な 図形)	習熟度別 3分割 (三平方の 定理)	未定 (昨年度は 3人TT)
	中間 テスト		期末 テスト		中間 テスト	期末 テスト	学年末 テスト	

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年 度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人に応じた指導のための指導方法及び指導体制の在り方を探る。 <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学級3展開の少人数授業では、単元によって習熟度別学習を取り入れることで、生徒の学習意欲が向上、生徒による多くの発問、生徒間相互の問題解決能力を高まりを期待することができる。 <p>研究方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内フロンティアプロジェクトチームを組織し、数学科にとどまらず、他教科(英語科・理科等)の学力向上のための研究・実践を行う。 単元ごとの小テスト、時間ごとのワークシート等を用い、指導と評価の一体化に努める。 相互の授業参観を行い、指導方法の研究と指導力の向上に努める。 教科指導に関わる事前・事後の打ち合わせを定期的に行い、常に教師間の情報交換を行う。
--------------------	---

平成 15 年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成14年度の課題を明確にし、課題解決に取組み、個々の生徒の実態に応じた指導の研究を行う。 <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習の過程に応じた適切な少人数指導を行うことにより、生徒の個々の能力・適性・興味・関心に応じて、きめ細やかな指導展開ができ、基礎・基本の定着を含めた学力向上を図ることができる。 <p>研究方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本を含めた学力向上のために、より効果的な習熟度別指導についての研究と実践に努める。 単元ごとの小テスト等を用いた正答率等の資料を比較検討する。 学校教育自己診断で広く保護者や生徒の意見を聞き、実態に即した学習指導の向上に努める。 先進校視察や各種研修会に教員を派遣し、校内研修で報告させ共通認識を図る。 公開授業を定期的に行う。
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年間の成果をまとめ、生徒の実態に応じた本校独自のカリキュラムづくりや、教科指導法の研究・実践を行う。 <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に応じた指導方法の工夫・改善により、生徒自らが、わかる・出来る・楽しいを実感し、課題解決の能力を向上させることができる。 <p>研究方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科指導方法の多様化について、研究・実践を行う。 外部講師を校内フロンティアスクールプロジェクトチームに加え、新たな指導・助言を受けより発展的に取り組む。
----------------	---

*平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制

<ul style="list-style-type: none"> 校内にフロンティアスクールプロジェクトチーム（校長・教頭・教務主任・学習指導部長・数学科主任・理科主任・英語科主任）を編成し、定期的に会議を持ち、個に応じた指導方法の研究計画や実践結果の検討を行う。 数学科教員が中心となり、授業形態や指導法の改善などの研究内容について全職員の取り組みとなるように研修を持つ。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>各定期テスト前に、生徒の実態を踏まえた理解や習熟の程度に応じた課題で指導を行った。また、習熟度別指導については、生徒の理解度の差が大きいと考えられる単元において、習熟度別授業を行った。生徒には、単元ごとに希望をとり、希望を優先しながらクラス分けを行った。年度途中で授業形態を変えることにより、教師間の綿密な打合わせと連携が必要となり、教科会議で習熟度別指導のコース案を作成した。習熟度別授業は、教科書・共通プリントという同一教材を使い、授業内容については、コース案にそって共通理解のもとにコース別に授業を進めている。そのことが、教師の指導方法の改善や指導力の向上につながった。また、以前より個々の生徒を多面的に深く把握することができるようになり、学習意欲を高めることとなった。</p> <p>少人数で指導することにより、基礎・基本の徹底をはかることができ、全体としての成績も概ね向上している。</p>

2. 今後の課題

- ・どのような指導方法（均等分割、習熟度別分割、課題別分割、T T形式）が生徒の学習意欲を向上させ、効果があるのかを検討し、実践と研究に結びつける。
- ・単元終了後（または学期ごと）に、小テストやアンケートを行い、生徒の基礎・基本の定着の確認や意識調査をすすめる。
- ・公開授業等教師の力量を高める研修を行い、指導方法の研究をすすめ共通認識を図り、教員の指導力の向上に努める。
- ・指導案の作成にあたり、教科部会で研究・協議に努める。
- ・少人数に適した教室の施設・設備の充実に努める。

学力等把握のための学校としての取組

- ・定期テスト（各学年年間5回）実力テスト（3年生年間2回）の実施
- ・1学期に計算力診断テストの実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

公開授業

平成15年11月14日（金）「文部科学省委嘱学力向上フロンティア事業、
北河内地区学力向上推進協議会
枚方市学校園活性化推進校園事業」

HP作成 [本校メールアドレス higashikouri00-jh@city.hirakata.osaka.jp](mailto:higashikouri00-jh@city.hirakata.osaka.jp)

校内授業研究会、研修会

府内、他府県の学校の多数の視察訪問をうけ、授業公開、実践報告の説明、意見交流等を行った。

上記の取り組みも含め、他校の公開授業・研究協議に積極的に参加し、本校の実践の紹介や意見交流を行い、普及に努めている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	その他			
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健・体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	